

1 研究主題

言語活動の充実を図る学習指導法の研究
～ ねらいに応じた多様な言語活動の工夫 ～

2 主題設定の理由

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような状況において、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことが、ますます重要になっている。新学習指導要領では、ますます基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成の必要性が言われている。さらに、児童の発達段階を考慮し言語活動を充実させる重要性も謳われている。

また、本市では平成21年度から各中学校区毎に連携型小中一貫教育がスタートし、教科指導や生徒指導等において、児童生徒の多様な交流活動や行事等の合同実施、教員の交流研修等をとおして、小中学校全教職員の意識を共通化するとともに、小学校から中学校への円滑な接続を図りながら、コミュニケーション能力や表現力の育成を図っている。

本校の児童は、学習への興味・関心の個人差が大きく、複式学習の間接指導時における主体的に学ぶ学習態度の確立が十分とはいえない。また、読み・書き・計算などの「基礎学力」や自分の考えを言葉や文章で表現したり、書かれている内容を正確に読み取ったりすることが苦手な子どもが多く見られるという課題が明らかになっている。4月に実施した標準学力検査（NRT）結果の分析で、個々の児童の学力の実態を把握し、個に応じた改善点を共通理解し、個別指導に役立てることができたが、本校児童の傾向として、国語科「話すこと、聞くこと」の領域が全国比を下回る傾向にある。そこで、国語科での表現力の育成と併せて、薩摩川内市の独自教科「コミュニケーション科」における表現力の育成、その表現力の基礎となる共通分野における言語力の育成が重要であると考え、

そこで、今年度は昨年度の国語科複式指導における言語活動の充実を図る研修を生かして、国語科をはじめとする各教科における言語活動の充実と共に、コミュニケーション科や外国語活動における表現力の育成をめざした言語活動を充実させることで、「自ら意欲的に学び続ける確かな学力と、社会の変化に主体的に対応する柔軟な思考力・創造力・表現力、コミュニケーション能力や人間関係構築力を備えた、人間性豊かで心身共にたくましい大馬越の子どもを育成する」という学校目標の具現化を目指したいと考え、上記のような研究主題を設定した。

学校教育目標	自ら意欲的に学び続ける確かな学力と、社会の変化に主体的に対応する柔軟な思考力、創造力、表現力、コミュニケーション能力や人間関係構築力を備えた、人間性豊かで心身ともにたくましい大馬越の子どもを育成する
--------	---

3 研究の仮説

- 【仮説1】
- 学習のねらいを明確にし、学習の見通しを持たせることで、自ら進んで学び、意欲的に言語活動に取り組む子どもが育つのではないか。
- 【仮説2】
- 児童の実態を個別に把握し、個別指導の手立てを工夫することで、自ら進んで学び、意欲的に言語活動に取り組む子どもが育つのではないか。
- 【仮説3】（今年度重点的に取り組みたい課題）
- 児童を取り巻く言語環境を整備することで、自ら進んで学び、意欲的に言語活動に取り組む子どもが育つのではないか。
- 【仮説4】（今年度新たに取り組みたい課題）
- コミュニケーション科や外国語活動において、豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけさせることで、自ら進んで学び、意欲的に言語活動に取り組む子どもが育つのではないか。

